

(1) 「防災スペシャリスト」が実施する防災活動

- 国の防災計画の最上位計画である「防災基本計画」等を基に、「防災スペシャリスト」が実施する防災活動を右表のとおり整理した。
 - ◆ 防災スペシャリストが実施する防災活動には、予防、応急、復旧・復興に係わらずすべての活動に共通し、かつ、防災対策において最重要活動である「総合調整」(マネジメント)に係る活動と、予防、応急、復旧・復興それぞれで発生する「個別課題への対応」(オペレーション)に分けられる。
 - ◆ 防災スペシャリストが実施すべき防災活動には、「1. 計画立案」から「26.被災中小企業の復興、その他経済復興の支援」の26の防災活動がある。
 - ◆ その活動は、予防、応急、復旧・復興に係わらずすべての活動に共通し、かつ、防災対策において最重要活動である「総合調整」(マネジメント)に係る活動と、予防、応急、復旧・復興それぞれで発生する「個別課題への対応」(オペレーション)に分けられる。
 - ◆ 防災スペシャリスト養成は、これら26の防災活動ができる職員を養成する。

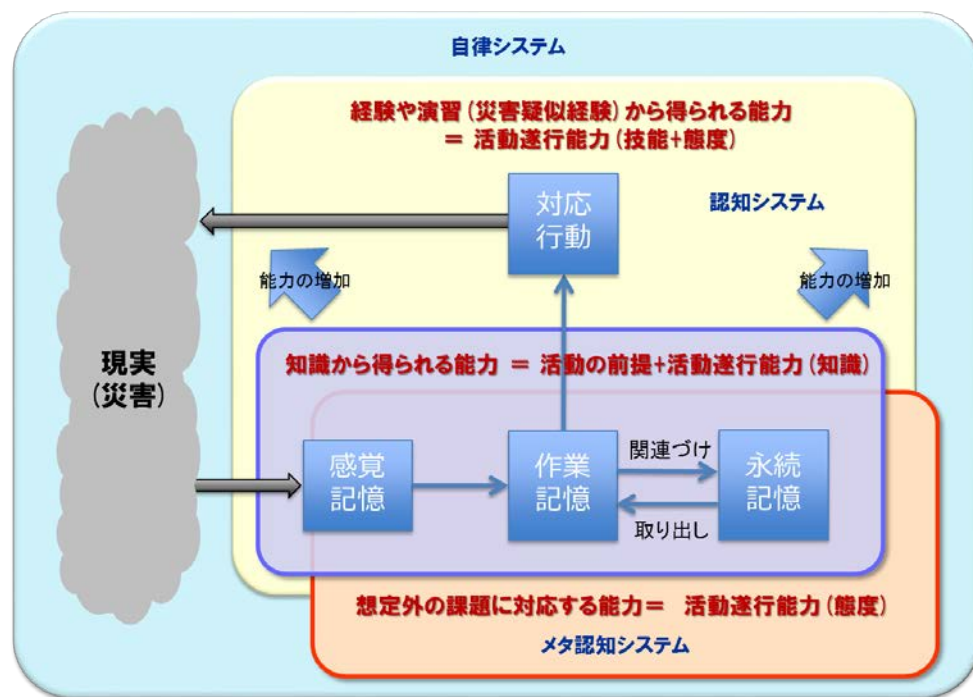
		予 防	応 急	復旧・復興
総合調整	1	計 画 立 案		
	2	広 報		
	3	活 動 調 整		
	4	実 行 管 理		
個別課題への対応	5	災害に強い国づくり、まちづくり	11 災害発生直前の対策	22 地域の復旧・復興の基本方向の決定
	6	事故災害の予防	12 発災直後の情報の収集・連絡及び活動体制の確立	23 迅速な原状復旧の進め方
	7	国民の防災活動の促進	13 災害の拡大・二次災害の防止及び応急復旧活動	24 計画的復興の進め方
	8	災害及び防災に関する研究及び観測等の推進	14 救助・救急、医療及び消火活動	25 被災者等の生活再建等の支援
	9	事故災害における再発防止対策の実施	15 緊急輸送のための交通の確保・緊急輸送活動	26 被災中小企業の復興その他経済復興の支援
	10	迅速かつ円滑な災害応急対策、災害復旧・復興への備え	16 避難収容及び情報提供活動	
			17 物資の調達、供給活動	
			18 保健衛生、防疫、遺体の処理等に関する活動	
			19 社会秩序の維持、物価の安定等に関する活動	
			20 応急の教育に関する活動	
			21 自発的支援の受入れ	

1～4は、予防、応急、復旧・復興に共通する最重要活動として設定
 1～3: National Preparedness Goal を参考に設定、4: PDCAサイクルの評価・改善の重要性から1～3に追加して設定
 5～26: 「防災基本計画」 第二編 各災害に共通する対策編 の各項目から設定

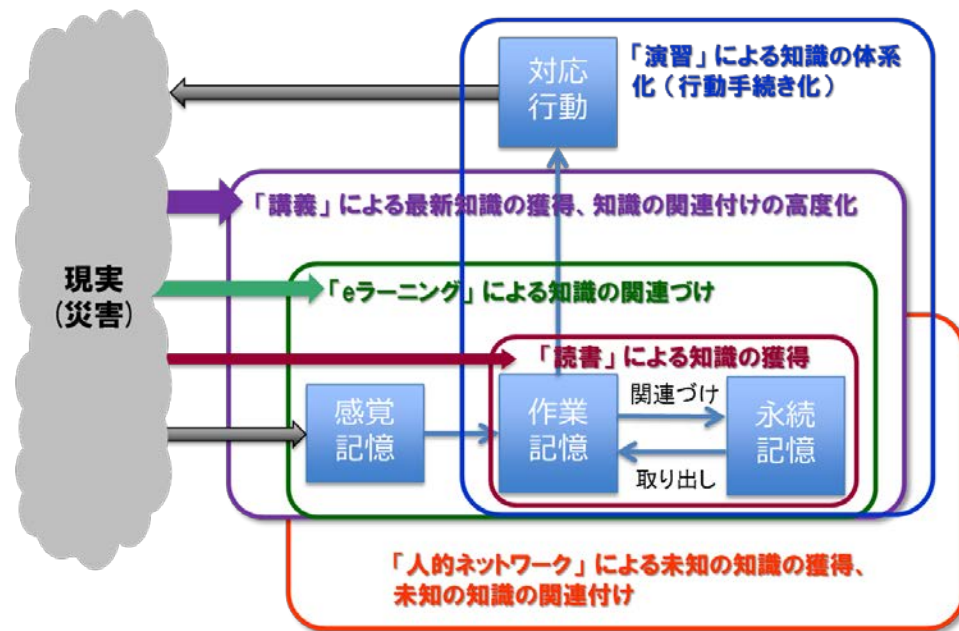
内閣府が主に対象とする防災活動

(2) 身につけるべき能力と思考システムとの関係

- 知識・技能・態度といった能力は、それぞれにあった研修方法での習得が効果的である。
- 「読書」は、知識の獲得ができ、現実の映像や音声などによる「eラーニング」は、臨場感のある現実に近い状況によって関連付けられた知識が得られるものと位置づけた。
- 「講義」は、災害対応経験者からの直接の説明を通じて最新知識を獲得したり、講師と受講者間でのやり取りにより、災害を身近に捉えながらeラーニングよりも高度に関連付けられた知識を得ることができるものと位置づけた。
- 「演習」は、知識が行動に結びつくことで、適切な行動をとるための知識の体系化が図られるものと位置づけた。



防災スペシャリストが身につけるべき能力と思考システムとの関係



各研修方法の効用

(3) 研修方法とその特性

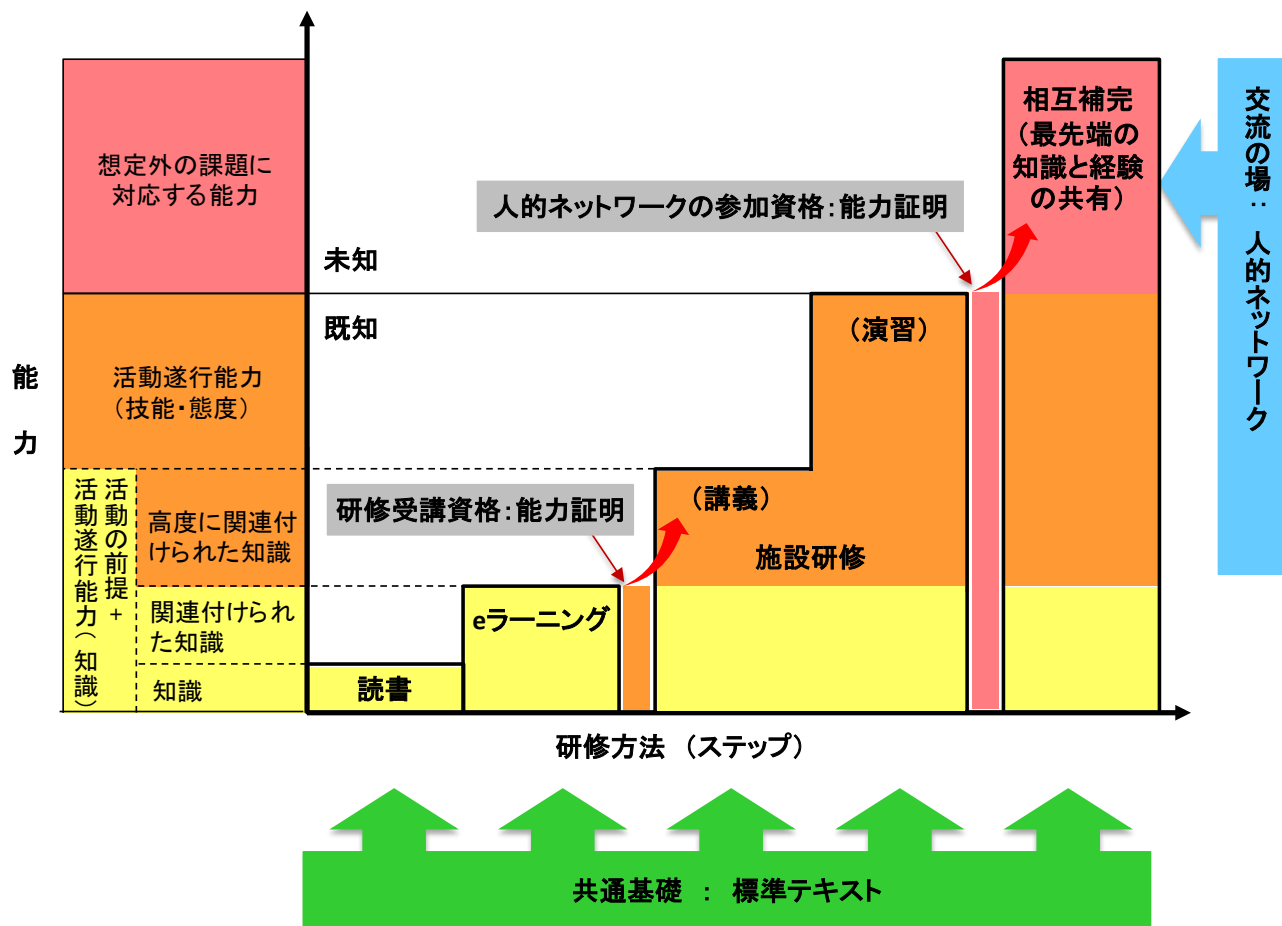
- 各研修方法の効用」を基に、「読書」や「eラーニング」、「施設研修(講義、演習)」、「人的ネットワーク」の研修方法の別に、身につけられるべき能力を下表のとおり整理した。

項目	読書	eラーニング	施設研修		人的ネットワーク
			講義	演習	
学習方法	テキストを読む	クイズに答える 講義動画を見る 現実(災害)の映像を見る	講師から解説を聞く 受講生同士や講師を交えて議論する	体験する (災害疑似経験)	講師や受講生同士が情報交換、意見交換、アドバイスをする
身につけられる能力	活動の前提+活動遂行能力(知識)	活動の前提+活動遂行能力(知識)	活動の前提+活動遂行能力(知識)	活動遂行能力(技能、態度)	想定外の課題に対応する能力
	知識	関連付けられた知識	高度に関連付けられた知識		
学習対象者	多数	多数	一定数	一定数	有資格者
場所	どこでも	どこでも	研修会場	研修会場	どこでも(オンライン)
学習管理	不可	可能	可能	可能	可能
人的つながり	なし	なし	あり	あり	あり

(4) 個人の能力を高める仕組み

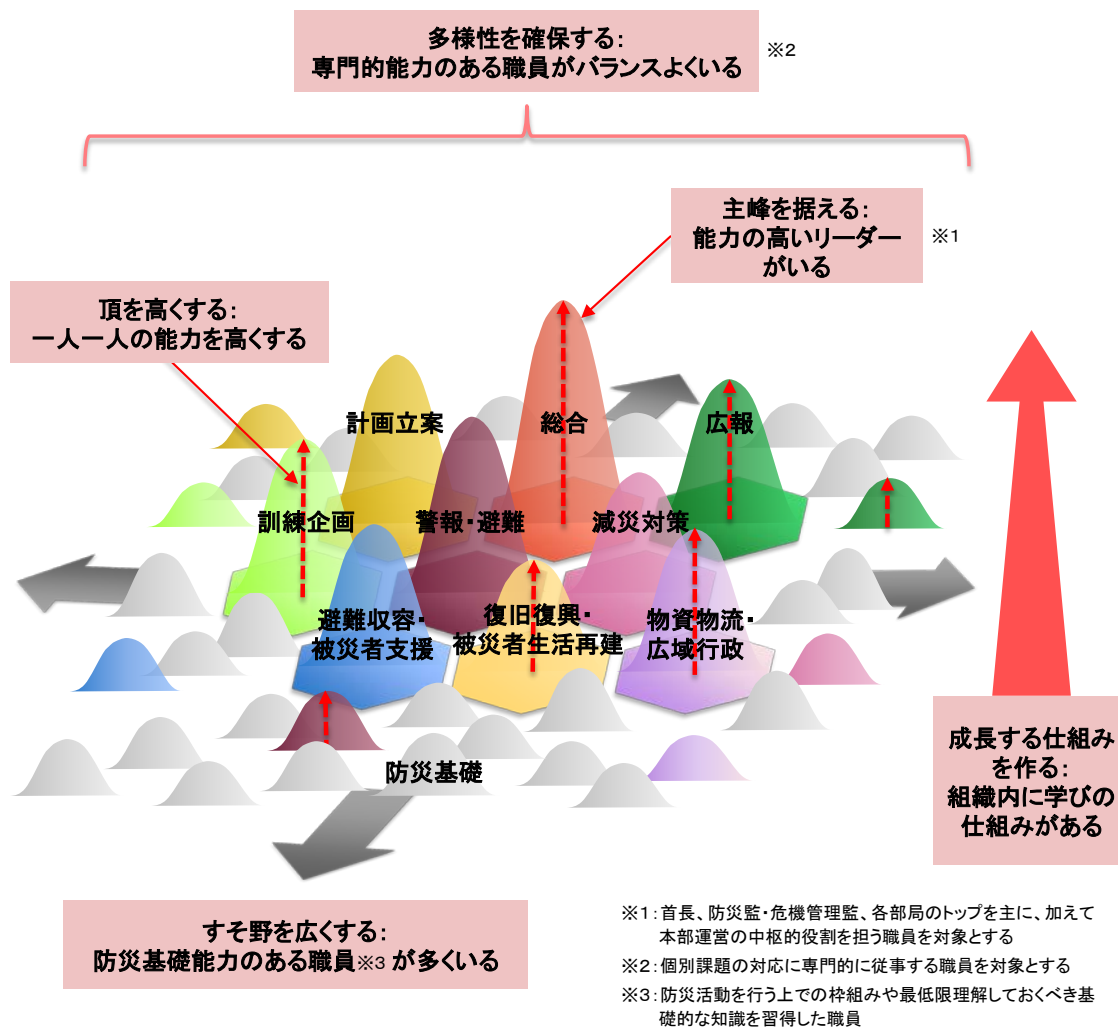
- 段階的に個人の能力を高めるという観点から、「各研修方法の特性」を基に、個人の能力に合わせた研修方法を検討し、その上で、研修を通じて身につけた能力を証明する段階や方法を下図のとおりとした。

各種研修方法の特性を生かして、段階的に能力向上を図る



(5) 対応力(人)を高める仕組み

- 組織の能力を高めるためには、対応力(人)に着目し、「主峰を据える」「多様性を確保する」「すそ野を広げる」「成長する仕組みを作る」「頂を高くする」という5つの観点から仕組みをつくる必要がある。



(6) eラーニングの仕組み（整備段階）

- 以下の通り、eラーニングの目的と整備を進める段階を検討した。

eラーニングの整備段階

目的	身につける能力	整備段階
研修受講資格を取得する	最低限理解しておくべき基礎的な知識	Step 1
関連付けられた知識を身につける	法律や計画などの防災活動を行う上での枠組みや、最低限理解しておくべき基礎的な知識	Step 2
	個別課題への対応に係る防災活動を行う上で不可欠な事項や情報	Step 3
	本部運営の中核となる防災活動を行う上で不可欠な事項や情報	Step 4

⑧計画立案	1.計画立案
⑨広報	2.広報
⑩総合	1.計画立案 2.広報 3.活動調整 4.実行管理

Step 4

②減災対策	③訓練企画	④警報・避難	⑤物資物流・広域行政	⑥避難収容・被災者支援	⑦復旧復興・被災者生活再建
防災活動を行う上で不可欠な事項や情報 6.事故災害の予防 7.国民の防災活動の促進 9.事故災害における再発防止対策の実施 10.迅速かつ円滑な災害応急対策、災害復旧・復興への備え	防災活動を行う上で不可欠な事項や情報 7.国民の防災活動の促進 10.迅速かつ円滑な災害応急対策、災害復旧・復興への備え	防災活動を行う上で不可欠な事項や情報 11.災害発生直前の対策 13.災害の拡大・二次災害の防止及び応急復旧活動 16.避難収容及び情報提供活動	防災活動を行う上で不可欠な事項や情報 12.発災直後の情報の収集・連絡及び活動体制の確立 15.緊急輸送のための交通の確保・緊急輸送 17.物資の調達供給活動 21.自発的支援の受入れ	防災活動を行う上で不可欠な事項や情報 16.避難収容及び情報提供活動	防災活動を行う上で不可欠な事項や情報 22.地域の復旧・復興の基本方向の決定 23.迅速な原状復旧 24.計画的復興 25.被災者等の生活再建等の支援 26.被災中小企業の復興、その他経済復興の支援

Step 3

①防災基礎	最低限理解しておくべき基礎的な知識	防災活動の概要 6. 7. 9. 10	防災活動の概要 7. 10	防災活動の概要 11. 13. 16	防災活動の概要 12. 15. 17. 21	防災活動の概要 16	防災活動の概要 22. 23. 24. 25. 26
	枠組み	22の防災活動全体に関する基礎的な知識 ・国土の特徴と災害 ・防災活動の流れ(応急、復旧復興、予防) ・災害における主な被害と対策 ・災害対応の原則					
		・災害対策基本法等 ・防災計画等 ・災害発生メカニズム					

Step 1

Step 2

- 図中の1～26の番号は、「防災スペシャリスト」が実施する26の防災活動(表2-1)の各防災活動を示している。
- 図中の「防災活動を行う上で不可欠な事項や情報」と「防災活動の概要」で示されている番号は、26の防災活動の中の「個別課題への対応」のうち、内閣府が主に対象とする16の防災活動を示している。
- 図中の「22の防災活動」は、「防災スペシャリスト」が実施する26の防災活動のうち、「個別課題への対応」に関する5～26の防災活動のことである。

eラーニングで身につける能力の範囲と整備段階

(7) 人的ネットワーク構築の仕組み

【目的】

- 最先端の知識と経験を共有し、想定外の課題に対応する能力を身につけるための「交流の場」の提供

【ネットワーク(NW)参加資格】

- 有明の丘研修(10コース)の防災基礎コース以外の9コースの修了者

【内容】

- ① 専用ホームページを通じた交流の場
 - NW参加者同士が、日常的に利用できる交流の場
- ② 直接交流の場
 - 日頃は専用ホームページを通じて交流しているNW参加者が、直接交流する場

場	内容
1. フォローアップ研修	最近の防災に関する施策や対応事例、研究成果等について、講演、講義、発表を通じて、最先端の知識を得る。(年1回程度開催)

- ③ 経験の場
 - NW参加者が、さまざまな経験を得ることで能力向上を図るための経験の場

場	内容
(平時)施設研修の講師経験	研修指導要領を学習した上で、講師のサポート業務など、施設研修の講師を経験する。
(災害時)被災地への応援経験	被災地方公共団体等の人的ネットワーク参加者と調整を図りながら、実際に被災地への応援対応を経験する。(被災地との調整、応援職員としての派遣等)

(8) 能力評価の仕組み

【目的】

種類	目的
個人の能力評価	個人が能力を向上させるにあたり、次の段階へ進むことができる能力を有していることを証明する
組織の能力評価	組織としての自己点検を行うことにより、不足する項目を強化する

【個人の能力評価】

No.	目的	評価方法	評価内容	評価基準	証明の方法	課題
1	研修受講資格	eラーニングのテスト	希望の研修コースの受講に必要な知識の理解度(関連付けられた知識)	満点(100点)の獲得	合格証明書 (ホームページからダウンロード)	
2	人的ネットワークの参加資格	研修の受講時間 研修内テスト	受講時間 受講したコースの内容の理解度(高度に関連付けられた知識、技能、態度)	一定以上の時間の受講 一定以上の点数の獲得	研修修了証	(課題)時間経過に伴う能力の低下を防ぐため、能力評価に有効期限を設けたり、新たに出現する知識や課題に関する情報を提供する必要がある。

【組織の能力評価】

- 対応力(人)を高めるために必要な「能力の高いリーダーがいる」、「専門的能力のある職員がバランスよくいる」、「防災基礎能力のある職員が多くいる」、「組織内に学びの仕組みがある」の4つの項目について、自己点検する。
- 「能力の高いリーダーがいる」、「専門的能力のある職員がバランスよくいる」、「防災基礎能力のある職員が多くいる」の3項目については体制の観点から、「組織内に学びの仕組みがある」については研修訓練の仕組みの観点から評価する。
- 評価のための「チェックシート」を提供する。